

( )

ん。  
今もし私に好きな人がいたら、絶対に恥ず  
かしくて口に出せません。だから、「ぼく」  
の抱いた先生へのあこがれも、恋愛というよ  
り、近所のきれいなお姉さんがキラキラ輝い  
て見えるような、そんなタイプのあこがれだ  
と思います。  
私の家に、なぜか『10分で読める名作  
5年生』がありました。  
その中には、いろいろな作品が入っていま  
した。芥川龍之介の『トロツコ』も読みまし  
たが、ちよつと意味が分からなかつたです。  
私の中でいちばん登場人物の気持ち分かる  
ような気がしたのが、この『一ふさのぶどう  
です』。  
そうです。私には分かる気がしたのです。  
恋愛ではないけど異性への「あこがれ」の感  
じ。  
しかし、それを「ぼく」は失ってしまいま

』